

## 第9回中部 MIST 研究会ハンズオンセミナーに参加して

浜松医科大学附属病院

鵜飼由真

私は手術室看護師一年目で脊椎手術の経験も浅く、手順書の振り返りや使用器具の紙面上での復習では限界を感じていたため、今回、先輩看護師に誘われたことをきっかけに参加しました。セミナーに参加することで、実際に器械を使用して術者の体験ができることを楽しみに、自身のスキルアップができる良い機会であると考えました。

セミナーでは最初にミニレクチャーとして、脊椎外科手術のための解剖・手術の合併症についての医師から講義がありました。XLIF、OLIFの違いやアプローチの方法を学びました。また、脊椎の手術において必要な解剖を踏まえた上で、術式にごとの合併症の理解や、注意点についての講義があり、医学的な根拠を理解することができました。次に、看護師の脊椎脊髄外科での器械出しについてのミニレクチャーがありました。手術において看護師もチームの一員であり、コミュニケーションの重要性、術野を確認しながら先見性を持った器械出しをする技術の大切さを再確認しました。

ハンズオンセミナーでは、整形外科の先生やメーカーの方々から指導を受けながら脊椎固定やXLIF、OLIFの術者体験をしました。器械に関する知識や手術手技に関すること、ミニレクチャーの時の講義を基に、安全に行うために注意することについて学ぶことができました。特にXLIF、OLIFでは術野が見えにくい状態での器械出しとなるため、先見性の技術に難しさを感じていました。渡した器械がどのように使用されているのかも術野が見えないことで分かっていませんでした。ハンズオンで実際に体験することで、器械の使い方を理解したと同時に、細やかな気遣いのできる器械出しの技術についても考える機会となりました。そして、体験する中で、手術の時には聞くことのできない疑問も先生方や各メーカーの方に聞くことができ、普段の迷っていたことや、分からなかったことについても解決する良い機会となりました。

今回、参加させていただいたことで、いままでは不安を感じていたことが、次への活力へと変わりました。自ら、コミュニケーションを図り、チームの一員として手術に参加している意識を持ちながら、術野を確認し先見性を持った器械出しができるようにしていきたいです。

最後に、貴重な学びの機会を与えていただきましたみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。

